

日本聖公会
ウィリアムス
神学館ニュース

大塚 勝司祭を送る

司祭 ヨハネ 吉田 雅人

二〇〇二年よりウィリアムス神学館の主事として、また日本キリスト教史の教授として、日本聖公会の神学教育の一端を担ってくださった、ダニエル大塚 勝司祭は、二〇一六年十一月二十九日午前八時四五分に神様のもとに召されました。

一昨年より少し咳が出ておられて、心配していたのですが、昨年秋口に呼吸器内科に入院され、三ヶ月ほど療養されていきました。しかし無事に退院された後は、酸素の補充はしておられましたが、授業も普段どおりして下さっていました。今年も酸素



ボンベの助けは借りておられましたが、授業も聖アグネス教

2016年
第95号

The Bishop Williams
Theological
Seminary NEWS
日本聖公会
京都教区
発行・編集人
吉田雅人
〒602-8011
京都市上京区烏丸通
下立売上る桜鶴門町380
☎ 075(431)5406
FAX 075(431)5445
Williams@muc.
biglobe.ne.jp
察 ☎ 075(431)5408

会での礼拝奉仕も続けてくださいました。また秋口に再び入院されましたが、十一月中旬にはドクターの許可も出て無事に退院され、自宅療養をされておられたのです。

実は先生が召される二日前の日曜日、私はメールをいただいており、それには日本キリスト教史の授業のこれからのこと、京都教会の様子について知りたいから、試験週には自宅に来て欲しいことなどが記されておりました。長年連れ添われた奥様の美智子様やご自身の体調のことはもちろん今年度受講している二人の神学生の授業の持ち方、近い将来に起こるであろう「日本キリスト教史」の後継教員のこと、こういったことが先生のもっとも気になっておられることだったと思います。

先生は、お若い頃、一度聖職の道を志されたことがあります。何かのご都合でその時には断念されたようですが、やはり神様がお定めになった時があったのでしょう。還暦を迎えられた時、再び聖職の道を目指され、ご自身の人生の秋を神と人にと、そして神学教育に献げられたのです。その意味では、先生はまさに最後の時まで

で「仕える者」としての聖職の人生を送られたのだと思います。いつもニコニコしておられた大塚司祭さま。私たちも涙ではなく笑顔で先生を神様のもとにお送りしたいと思います。

※願わくは大塚勝司祭の魂が主にあつて安らかに憩わんことを (よしだまさと・館長)



急逝された大塚勝教授の魂の平安とご遺族に主の慰めがありますよう心から祈り申し上げます。その驚きも醒め遣らぬ中、大塚先生を偲ぶ記事をごの稿とすることをお赦しくださいたい。同師の通夜および葬送式で喪主の美智子姉が「やさしいひとでした」とご挨拶なされたことが強く印象に残っている。その通り、

先生がまだ神学生の頃、わたしの司牧する教会で実習をされたのだが、まだ幼いわたしの娘をご自分の孫のようにとても可愛がって下さった。また教会委員会では、完全に沈黙を守られたのだがそれは神学生のけじめとして硬くご自身に課しておられたことだった。主事になられてからは昼食で一緒にするのが楽しいひとときだった。京都の歴史や文化をウィットに富んだ語り口で話して下さいました。スタッフ会議では、いつもお茶菓子をご自身で用意下さっていました。またその会議で数年前には、突然「黒田先生、留学してください！」といつになく強い口調で仰られた。その期待には未だ応えられていないが、神学館の将来をもお考えになつてのことだったと思う。大塚先生のやさしさは、それ自体がいれば、己を虚しくして伝えられる「道」だった。その志を受け継いで神学教育に活かしていきたいと思う。

(黒田 裕)

二〇一六年度 夏期実習報告

——小さくされた人々とともに
大阪・生野区／西成区における教会の働きに学ぶ——

6月20日月〜24日金、二〇一六年度夏期実習が聖公会生野センターと聖ガブリエル教会のご協力を得て行われました。今年度の課題は在日外国人、ことに在日韓国・朝鮮人の人々や釜ヶ崎の日雇い労働者の方々への教会のミニストーリーについて学びました。

「よそ者」というフィルター

3年生 ルカ 柳原 健之

ウイリアムス神学館の夏季実習にて初めて生野・釜ヶ崎の地を訪れた。どちらもテレビの特集などで取り上げられているため大まかな情報は知っていたが、実際現場を訪れると映像からだけでは感じ取れないものが色々と入ってきた。釜ヶ崎を訪れた際、最初に西成労働福祉センターの前で講師の方を待っていた。センターの1階は吹き抜けになっており、そこには日雇い労働をされている方々がおられた。そこで感じたのは外側から見ている私と中から見られている私であった。今回は純



(やなぎはらたけゆき・京都教区聖職候補生)

粋に勉強をしに来たのであり、支援活動をしに来たわけではなかった。ただ単純に私は「よそ者」であった。外から中の人を見ている私と中に「よそ者」として見ている私と。今回はその「よそ者」というフィルターに守られていたのかもしれない。しかし、今後何か関わりを持つに、そのフィルターを破っていけるのか。そのような課題が一つ見えた。

ハルモ二たちの笑顔

3年生 アンデレ松山 健作

生野実習ではさまざまな体験をさせていただきました。そのなかでも印象に残っているのは、聖公会生野センターでハルモ二たちと交流させていただいたことです。ハルモ二たちとお話する時間は、非常にゆったりとした時間でした。しかし、そんなゆったりとした安らぎの時間でしたが、私がお話しをしながらある別のことを考えさせられました。それは「なぜこれら大勢のハルモ二たちとハングルでお話ができないのか」ということです。それを考えていると母語、その他諸々のものを奪ったという日韓の歴史が現実的な罪として、私に襲いかかってくるように思われ、私自身はゆったりと安らいだ気持ちでハルモ二たちと交流ができていなかったのではないかと、と振り返っています。しかし、ハルモ二たちは笑顔で接してくださり、楽しそうにお話しておられる姿を拝見しながら、聖公会生野センターにおける働きがハルモ二たちの心を満たしつつあるのだとも感じさせられました。地域のニーズに合わせた宣教の事業を考えるとということは、教会の働きにおいて見落とすことのできない視点なのだろうと肌で感じる体験となりました。(まつやまけんきく・京都教区聖職候補生)

歴史を省み、理解と共生に

3年生 セシリア 塚本 祐子

旧猪飼野、消された地名は以前から噂に聞いていた。そこからそう離れてはいない八尾市で育った私の母から、同じ校区に韓国人の人達の住む町があった事、受験の前には父親から「勉強せえへんかったら……」と叱咤された昔等聞いていたが、それら思い出話の社会的背景を知らされることになった。若い労働者の就職先として工場も数多あったろうに、何故「生野」に象徴されたのか。何故「ゴ

出会い、初めての経験

2年生 ヒューム・ウィリアム・ユーワン

二〇一六年六月二十〜二十四日、ウィリアムス神学館の夏期実習が大阪で行われました。夏期実習のテーマの一つは大阪での在日韓国人・朝鮮人に関する施設の働きでしたので、「聖公会生野センター」と「のりばんで」を見学しました。聖公会生野センターの呉 光現総主事は、プログラムコーディネーターとして講師に依頼され、在日韓国人・朝鮮人の歴史と現在の諸問題についての講義をされました。しかし、夏期実習は講義だけではなく、フィールドワークもありましたので、呉 光現総主事には生野の現場をご案内

ム」工場がそこに集中していたのか。そして在日をはじめ進学の機会を失った人々がそこへ集められる社会の構造も。鉱業や土木の為に祖国から強制連行によって来日、独自のコミュニティを築いて生き延びねばならなかった在日一世の歴史。二世、三世の方々の複雑なアイデンティティ。昨年沖繩で見た恨(はん)の碑の耐え難い蹂躪の姿を表した像を思い出していた。歴史を省み「彼ら彼女ら」と「自分達」の垣根を越えて理解と共生に近づける必要を強く感じた。

つかもとゆうこ・九州教区聖職候補生

して頂きました。また、二日目の夕方に韓国語の講師の方々や生徒の方々と懇親会があり、色々な方々とお話する事ができ、とても楽しかったです。

夏期実習のもう一つのテーマは「釜ヶ崎とキリスト教の働き」です。釜ヶ崎見学に行くと、二つの講義がありました。私は釜ヶ崎に行くのは初めてなので、とても興味深かったです。

夏期実習期間中に神学生六名と教員三名で大阪教区聖ガブリエル教会の牧師館に泊まりました。毎日、朝の礼拝は聖ガブリエル教会で行われ、朝食は牧師館で取りました。毎晩今日あった出来事の振り返りをしました。聖公会生野センターと聖ガブリエル教会の皆様には大変お世

本田神父の講演を聞く



話になりました。本当に有り難うございました。

(大阪教区 聖職候補生)

2017年度ウィリアムス神学館 入学試験

下記のように2017年度ウィリアムス神学館の入学試験を行います。

- *試験日時 2017年2月8日(水)
- *試験科目 聖書内容・英語・国語現代文・面接
- *願書締切 2017年1月26日(木) (必着)

お問い合わせは神学館まで。(075-431-5406) 入学願書等は、所属教会牧師にお尋ねください。

新入生自己紹介

「出会いと学びの時」を日々誠実に

春の神学館二ユース94号でもお知らせしましたように、四月六日(水)に、二〇一六年度ウイリアムス神学館入学礼拝が、京都教区主教座聖堂(聖ラファエス教会)で行われ、2名の方々が入学されました。宮田裕三さん(神戸)は本科生として三年間の学びを、永野拓也さん(神戸)は、教区派遣科目聴講生として二年間の学びをされます。以下でお二人の方々に自己紹介をしていただきます。



ルカ 宮田 裕三

一歩一歩丁寧に歩んでいきたい

中学校の入学式以来、三年ぶりの入学式を終えて、勉学に励んでいます。

未来を創造するコンピュータエンジニアとして一五年以上働いており、戸惑いと不安の日々を過ごしております。妻と息子四人の六人家族。家族を東京に残



バルナバ 永野 拓也

今年度から、教区特別聴講生としてウイリアムス神学館で学ばせていただきます。

神戸教区神学生の永野拓也と申します。よろしくお願いたします。

生まれも育ちも神戸で、出身教会は神戸聖ヨハネ教会です。京都で六年間大学生活を送った後、群馬のキリスト教主義の中高で四年間教員をしていました。現在二八歳で、昨年十一月に結婚して妻がいます。

して単身で京都にまいりました。今どきはスマートフォンでビデオ通話ができますので、いつでも連絡を取り合い、お互いを気遣いながら、家族共々、修学後の心の準備をしております。

歩みに於いては今まで出会ってきた諸先輩方の足跡をたどり、学びに於いては、二千年以上にわたる先達たちの残した足

ウイリアムス神学館での生活は、私にとって非常に刺激的なものであります。神学の学ぶ量の多さに驚きもありますが、何よりも祈りを中心とした共同生活を通して、先生方や他の神学生の方々から多くのことを学ばせていただいております。様々なことがある日常の中で、「共に祈り、共に生きる」という言葉の意味を噛みしめながら生活しています。同時に、様々な折りに触れて、皆様からお支えいただいたことを実感する機会も多いです。代祷でお祈りしていただいたり、声をかけていただいたり。皆様の励ましに胸が熱くなります。

皆様の支えに感謝しながら、「出会い」と学習を通じた学びの時を、日々誠実に過ごしていきたいと思っております。いつもご支援いただきありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。

(ながのたくや・神戸教区神学生)

跡をたどり、自分ほどの様な歩みを求められているのか、それが御心に叶っているのだろうかと一歩一歩丁寧に歩んでいくと考えております。まだまだ教会を必要としている人は沢山います、必要を満たすことの出来る教会でいられるように、祈り続けていきたいと思っております。

(みやたゆうぞう・神戸教区神学生)

2016年度体験入学

十月二日(火)から三日(木)までの二泊三日で、今年度の体験入学が行われました。四つの教区から五人の方が参加され、神学館の教育理念を聞き、祈りと生活を共にしながら神学生と一緒に学びの時を持ちました。また「牧師であること」というテーマで、本館卒業生の義平雅夫司祭(大阪教区)からお話をうかがいました。以下は、参加者の感想です。

捨てる！

ヨハネ 大塚 邦夫

誠実・正直・本音・生活・数奇・・・。
 そんな言葉が次々に浮かんできます。近い将来に牧会奉仕という具体的実践に生かされる本質的学問研究と訓練。そんな印象が強いです。

辻彩乃先生から教わった「トニイホヘロホイ」は完全に私の頭の中に定着しています。ウエーバーの「魔弾の射手」の最も崇高な一節が聖歌となっているというのも楽

しいお話でした。

吉田先生から教わった「聖婚式」では、古代からの略奪婚や売買婚の名残、古代ローマの風習の名残が、指輪・花束・キャンドルサービス等々に見られるというお話や、現代的な離婚・再婚にまつわる議論が記憶に鮮明です。義平先生がみずからの人生を語りつつ、たった一人でいいから完全にイエス・キリストの福音を伝えられたらとお話になったことが感動的でした。

何といっても、宮田さん司会で永野さんのレポートの聖書研究のひとつときは、その研究の真摯さ・深さ・広さに驚かされました。ユダヤ人とキリスト教・ナチズム・反ユダヤ主義にまで思いをはせた時間でした。交流会でのみなさんの正直な思いや人生の来し方についてのお話をうかがって、一人ひとりのお話に胸を打たれた次第です。「なんと、率直で具体的にキレイごとでない話し方をされるのだから！」と。〇〇

〇〇〇ビールも実に旨かった！
 祈り・清掃・食事準備・学び・議論・歌い・礼拝訓練・・・そして祈り。神学館の全生活が、ある一点の目的に集中して「学び」になっているとの感を強くしました。吉田先生の黙想講話「捨てる！とは何か」を今も黙想し続けている日々です。

神学館の皆様にご感謝いたします。
 (おおつかくにお・函館聖ヨハネ教会)

祈り学ぶ、静かな生活

洗礼者ヨハネ 鹿野 光輝

ウイリアムス神学館体験入学に二泊三日で参加しました。朝七時の礼拝(後、清掃と朝食)から、夕方六時の礼拝(後、夕食まで)(参加者はホテル泊)、共同生活のうち祈りながら学んでおられる学生の方々の中に、実際に入っていく訳ですが、その夕食後から翌朝七時までの間に、入浴(殆どシャワーで済ませよう)と講義(演習形式)の準備(と、自由時間と睡眠)になります。神学館で学ぶ三年間の密度は、相当に濃いものだと感じましたが、同時に「祈りながら生活し学ぶ」以外のものから護られているとも言えるのではないのでしょうか。今まで感じたことのないような心の静けさがありました。また、特に興味深かったのは、①聖歌はアカペラ(オルガニスト不在時の対応)。②食後のお茶は、ご飯茶碗を使用(食器洗浄の軽減となり禅寺に共通)。③雑誌ラックに仏教誌(共通する悩みの参考にも)。④朝の清掃(貴重な運動時間)でした。

この度は、遠い昔この身体の自筆メモ「牧師か天文学者になりたい」に込めた形でした。召命感が無くても、ヨナ書のように、追込み漁のように、人は遣わされます。それまでは、教会生活でのご奉仕ひとつひとつにも、み言葉を営んで参りたいと思います。

末筆ながら、教職ならびに職員・学生の方々には、ご多忙のところ大変お世話になり、誠にありがとうございます。

(かの こうき・松戸聖パウロ教会)

主を恐れ敬い、 賛美し感謝する生活

トマス 阿部 昌弘

二〇一六年十月一、二、三日の体験入学に参加して、ただ単に神学を学ぶだけの大学神学部とは違い、生活を共にしながら、共に学び、共に祈り、共に生活して学問を深める。また、ただそれだけでなく、互いに信仰をも深め合いながらの共同生活は、修道院にも通じるものがあり、是非、その群れに加わりたく強く感じました。

二十歳の時に洗礼を受けて、四十年もたち、許されるなら、いつかこの様な生活が出来たら、と思っていました。また、学館の日々の生活において、朝の礼拝祈りで始まり、昼の祈り、夕の礼拝祈りで終わる生活は信仰の基であり、神様が生きておられ、生きて働かれる主を恐れ敬い、賛美し感謝する生活を具現化する、一番良い在り方だと思いました。

また、共にと言う、一人での生活学びでは無い所が、今後、教会での宣教牧会で、何か困ったことがあった時に、相談出来る戦友の様な仲間が、与えられると感じまし

た。そして教会音楽の授業で普段からいかに、聖歌を知らないかを、おもしろい知らされました。この授業は教会での働きの必須の授業、たとえ強く思います。

(あべ まさひろ・富田林聖アグネス教会)

祈り学ぶ、静かな生活

グレース 平本 有記映

「どこの教会でも同じですが、信徒の高齢化と、世代間の断絶により、信徒は毎年減り続けています。今四十歳代後半の私が



▶ 体験入学参加者の皆さん

死ぬ時には一体誰が私を葬ってくれるのか？ふと考えた時、誰もいないどころか教会さえなくなっているかもしれない、伝道しなれば！と思いました。

地域コミュニティが崩壊している今こそ、聖書のみ言葉をもっと読み込んで、自分の中で噛み砕いて消化して、人々に伝えていかなければ、と思いました。信徒になって十年、穏やかで温かい先輩信徒達に支えられて、神様と共にここまで歩んで来る事が出来ました。もっともっと聖書や礼拝について勉強したい！という思いを抱えていた時、神学館の体験入学の案内を見て、早速休暇を取り、行くことを決めました。

初めての京都。聖アグネス教会を横目に見ながら趣きある洋館に到着しました。周囲は賑やかに観光客が行き交う街ですが、学び舎は閑静で神学を学ぶには相応しい場所だと感じました。

体験者は五名。時間になると早速、神学生の方々と共に夕の祈りを捧げ、夕食を共にしました。食事は賄いの方が持ってきた栄養バランスの取れた食事を、分担して配膳し感謝して頂きます。日々の祈り、生活全般の事は全て当番制で、学生の方々は忙しい授業の合間に黙々と自分の仕事をこなしていました。

一日目は緊張のうちに過ぎましたが、吉田館長と黒田司祭の包み込むような優しさで癒されて、二日目には、安心して学生生活が出来そうだと感じられました。現在、神学生は六名、年齢も経歴も様々で、成功していた仕事を辞め、神学校に行く事を決断するまでに、十年かかったと言う方もお

られました。神学生それぞれの人生の歴史について伺う事も貴重な体験となりました。私が訊ねた「司祭に向いていない人は、どんな人か？」という質問に対し、館長は「司祭は人間関係の調整役である」との答えを頂きました。どんな小さな教会でも社会の縮図のような絡み合った人間関係があります。だから、傲慢で人の話を聞こうとしない人、そもそも人に興味が無い人は司

ウィリアムス神学館・聖公会神学院
神学生（有志）交流会

一月二日(水)、ウィリアムス神学館に於いて、聖公会神学院、ウィリアムス神学館、各学生有志によって交流会がもたれました。時が満たされたとしても言うのでしょうか、ウィリアムス神学館の学生同士で「神学院の学生と交流を持ちたいね」と何度か話していて、同じように聖公会神学院の学生も「ウィリアムス神学館の学生と交流を持ちたいね」という話しが出ており、タイミングが合うときが一月にありましたので、京都ウィリアムス神学館で、交流会を持つ運びになりました。初めましての方から旧知の仲の者まで一緒になって楽しい時を過ごしました。

唱詠夕の礼拝で共に礼拝を守り、吉田館長の歓迎の挨拶で交流が始まりました。そして、神学館に於いてたこ焼き、串揚げと

祭には向いていない、との話でした。また、通信教育ではなく寝食を共にした共同生活を通じて、自ら学ぶ事も、司祭となるためのひとつの訓練であるとの事でした。私自身は現在仕事を持っていますが、数年のうちに伝道師コースを受講したいと考えています。司祭、伝道師を志す事を迷っている方、是非一度体験入学をお勧め致します！（ひらもとゆきえ・大分聖公会）

関西風の夕食で歓談し、食後は卓球大会も行われ、大いに盛り上がりました。同じ日



本聖公会の奉仕者として歩む者同士、今後とも何かしらの交流を持つ機会が増えることを願います。学生による感謝の祈りをもって交流会が閉じられました。

神学館の一学期

- ☆4月4日(月)、入寮日
- ☆4月5日(火)、
- ☆4月6日(水)、入学礼拝
- ☆4月6日(木)～9日(土)、オリエンテーション合宿
- ☆4月12日(火)、一学期授業開始
- ☆4月16・17日、教会実習開始
- ☆4月23日(土)、いまさら聞けない!!
- 「キリスト教の歩み」(菊地伸二教授) ネット講座で配信開始
- ☆5月19日(木)、ウトロ研修
- ☆6月10日(金)、16年度第一回理事会
- ☆6月20日(月)～24日(金)、
- ☆7月5日(金)、神学館ニュース発行
- ☆7月9日(土)、一学期授業終了
- ☆7月12日(火)～16日(土)、
- ☆7月17日(日)、一学期教会実習終了
- ☆7月19日(火)～20日(水)、補講・面接
- ☆7月21日(木)、一学期終業礼拝
- ☆7月23日(土)、出寮日
- ☆8月2日(火)、一学期末教授会
- 試験・レポート提出期間
- 夏期実習(生野・釜ヶ崎)
- キリスト教講座開講
- 裕治司祭、(ナザレ修女会)

神学館の二学期

- ☆ 8月17日(水)～18日(木) 聖公会関係学校教職員研修会
- ☆ 9月8日(木)、入寮日
- ☆ 9月9日(金)二学期リトリート (指導:岩城 聰司祭)
- ☆ 9月11日(日)、他教派礼拝出席
- ☆ 9月12日(火)、二学期授業開始
- ☆ 9月17日(土)、教会実習開始 「今さら聞けない」
- キリスト教講座」第5回
- ☆ 10月1日(土)、ヴィア・メディア第11号発行
- ☆ 10月11日(火)～13日(木)、体験入学、5名参加
- ☆ 10月20日(木)、東九条フィールドワーク
- ☆ 10月22日(土)、「今さら聞けない」
- キリスト教講座」第6回
- ☆ 10月24日(月)、若王子山
- ウイリアムス主教記念碑清掃・礼拝
- ☆ 10月29日(土)、教会音楽発声法講座1
- ☆ 10月31日(月)、ウイリアムス祭 講演:武藤謙一九州教区主教
- ☆ 11月2日(水)～8日(火)、リセス
- ☆ 11月19日(土)、教会音楽発声法講座2
- ☆ 11月26日(土)、「今さら聞けない」
- キリスト教講座」第7回
- ☆ 12月1日(木)、卒業小論文中間発表
- ☆ 12月3日(土)、二学期授業終了
- ウイリアムス神学館関係逝去者記念聖餐式
- 司式:高地 敬主教
- 説教:下田屋一朗司祭

- ☆ 12月6日(火)～10日(土)、試験・レポート提出期間
- ☆ 12月11日(日)、二学期教会実習終了
- ☆ 12月13日(火)～14日(水)、二学期末面接・補講
- ☆ 12月15日(木)、終業礼拝
- ☆ 12月17日(土)、出寮日
- ☆ 12月16日(金)、ウイリアムス神学館 ニュース発送作業
- ☆ 12月27日(火)、二学期教授会

✠ 主の平安をお祈りいたします

- *二〇一六年十月二十五日(金)、本館元教授のヨセフ小谷春夫司祭 (京都教区退職)が逝去されました。師の魂の平安をお祈りいたします。
- *二〇一六年十一月十日(金)、本館元館長のセントジョージ八木成之主教 (京都教区退職)が逝去されました。師父の魂の平安をお祈りいたします。
- *二〇一六年十一月二十九日(火)、本館卒業生・教授のダニエル大塚勝司祭 (京都教区退職)が逝去されました。師の魂の平安をお祈りいたします。

寄付・献金のご報告

左記の教会・団体及び個人の皆様から直接ウイリアムス神学館経常会計に「寄付」いただきました。敬称は略させていただきます。なお、神学館後援会にご寄付くださった方は、「後援会報告」を、ご覧ください。

- ◇ 2015年度のご寄付は以下の通りです。京都教区小学生キャンプ、京都聖マリア教会、京都伝道区信徒伝道協議会、京都伝道区婦人会、神戸教区、聖アグネス教会、聖オルバン教会(2件)、聖光教会、東北教区教役者会、相澤晃、上原榮正、桑原倫子、南知子、渡邊榮子 計 五六一、八一八円
 - ◇ 2015年度分の協力献金は以下の通りです。中部教区、大阪教区、神戸教区、京都教区 計一、二〇〇、〇〇〇円
 - ◇ 例年のように管区事務所より「神学校のための祈祷日」献金、三五、〇〇〇円を受領しました。お献げくださいました全国の教会の皆様にご感謝いたします。
 - ◇ 神学館後援会より三、八〇〇、〇〇〇円の寄付金(献金)を受けております。この詳細については「神学館後援会報告NO.50」をご覧ください。
- 以上、心から感謝しご報告を申し上げます。